第4期八戸市中心市街地活性化基本計画 令和6年度フォローアップに対する意見書

当市中心市街地では、昨年度に策定された第4期基本計画に基づき、八戸市中心市街地活性化協議会並びに八戸商工会議所、(株)まちづくり八戸、行政や関係者が連携し、官民一体となって活性化に取り組んでいる。

初年度の目標指標を視ると、「A Iカメラ地点通過者数」「公共施設来館者数」は数値が上昇し、「空き店舗・空き地率」は数値がやや改善するなど、全体的に好調な推移を見せた。一方で「まちなか居住者増加数」と「ホテル宿泊者数」は数値が下降したものの、計画期間内にマンション、ホテルが予定されていることを勘案すると全体としては前向きな一年であったと評価できる。一方で、指標のモニタリングにあたっては、システムやデータ提供の見直しなど、外部要因の影響も考慮しながら進めていただきたい。

4期計画の基本方針の一つである「多様な活動や交流が生まれるウォークブルなまちづくり」に関しては、旧柏崎小学校跡地での山車制作展示施設が本格稼働するため、来街者の回遊を促し満足度を高めることを期待したい。同所を含め計画区域全体への回遊性の向上に資する取組みの充実が待たれる。

また、八戸市中心街ストリートデザイン事業は、地元商店街や地権者を中心に数年に渡り検討を重ねてきた事業であり、道路再編に伴う荷下ろしスペースの運用ルール策定やハード面での祭事への影響など、それぞれの個別課題をクリアし、歩きやすく快適な道路整備の早期完了を目指していただきたい。

空き店舗が集中する十三日町周辺エリアの再活性化については、民間再開発の進展や商業施設の一部開業など前向きな動きも見られるが、こうした兆しを活かせるよう、地元商店街をはじめ関係機関と連携し、エリアの価値向上に取り組んでいただきたい。また、空き店舗対策においては、建物の老朽化による解体や修繕時に発生する課題を踏まえ、所有者が対応しやすい仕組みづくりの検討も重要である。

以上のことから、八戸市においては、引き続き目標指標の推移や現下の諸状況を調査・分析の上、適切な対応策を講じるべきと考える。

八戸市中心市街地活性化協議会
会 長 武 輪 俊 彦